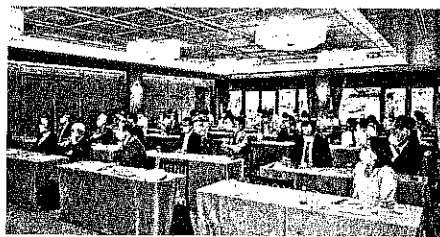


日本免震構造協会

免震部 実大試験施設設置へ

シンポに1500人参加



が「日本の未来と国土強
 靱化の推進」、京都大学
 の家村浩和名誉教授が
 「極限地震動に如何に対
 処するか?—免震・制振
 研究と確証実験の必要性
 —」をテーマに講演。日
 本学術会議の米田雅子土
 木工学・建築学委員会委
 員長が「免震・制振のデ
 ータ改ざん問題と信頼回
 復への対策」と題して講
 話した。また、日本免震
 構造協会の細澤治試験施
 設設置部会長は実大動的
 試験施設の設置に向けた
 活動内容を報告した。

国内には免震・制振装
 置の実大試験装置がな
 く、近年大型化する免震
 ・制振部材をアメリカや
 イタリアなど諸外国に持
 ち込み試験をしていると
 いう。この現状を踏まえ、
 国際標準に合わせた試験
 の実施体制を構築する必
 要性を訴えており、シン
 ポジウムを通じて試験装
 置の設置に対する理解と
 賛同を呼び掛けた。

日本免震構造協会(和田章会長)は14日、都内でシンポジウム「国土強靱(きょうじん)化に込める確かな土木建築の免震・制振構造の展開」を開催した。免震・制振構造の発展に不可欠という免震・制振部材の実大動的試験施設設置の実現に向け、機運を高めた。当日は、元国土交通大臣の太田昭宏衆議院議員、三浦のぶひろ参議院議員、山田邦博国土交通省技監、日本建設業連合会の山内隆司会長を来賓に招いた。オンラインによる同時配信で、ネット視聴者を含め約1500人が参加した。写真。

基調講演は、国土学総合研究所の大石久和所長